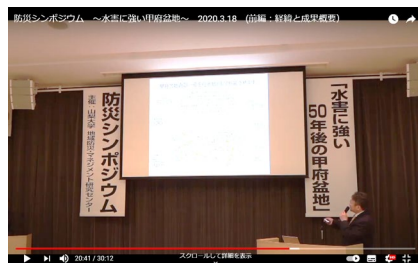


取組の様子



水害に強い甲府盆地推進研究会



防災シンポジウムの開催

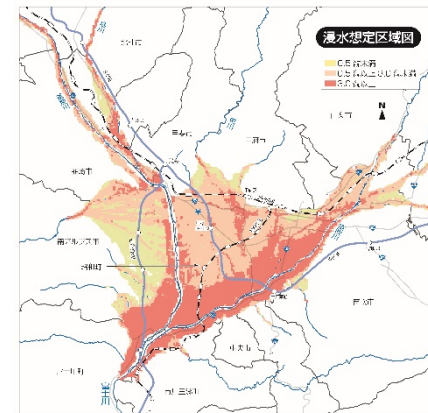
特色ある取組

2027年リニア中央新幹線開業は、新駅が設置される甲府盆地南部に絶好の発展の機会を与えています。ところが、地域の開発構想が定まっていない危機的状況でした。甲府盆地では想定最大規模の降雨に対する浸水想定区域に約40万人、そのうち浸水深3m以上に約10万人が居住しています。当センターでは、2016年から国、県、市町、そして地区住民にを対象として、広域避難計画策定のためのリスクコミュニケーションに取組みました。その結果、2019年には自治会の地区防災計画として広域避難計画が作成され、2021年には中央市の地域防災計画として、広域避難計画が作成されます。

一方、水害をかわして早期に立ち直ることのできるレジリエントな甲府盆地を目指して、2019年より産官学から参加者約30名による水害に強い甲府盆地推進研究会を運営しています。この研究会では、中世の治水技術・霞堤の再現、水を循環させて生物多様性を育む遊水地、緑と青の快適な居住環境・産業空間を創造する自然ミュージアム構想をまとめ、公表しました。

期待できる成果・評価

本取組みは、センター発案により、センターと国交省、山梨県との連携事業として、実施しています。本年6月に山梨県が発表した流域治水構想には、遊水地、伝統的治水工法、施設・受託の移転誘導、開発抑制・建築規制など、研究会による提言がそのまま採用されました。本年度は、若手の県職員、市職員や、建築家、スマートシティの専門家も加わり、県条例や区域マスタープランの参考となるレジリエントで持続可能なまちづくりを具体的に提示し、ナレッジブローカーの役割を果たします。



甲府盆地の浸水想定区域図(センター作成)



水害に強い甲府盆地・自然ミュージアム構想